

英語での表現活動を通して学習意欲を高める指導法の研究

～ストーリー・リテリングにおける学習方略使用の有効性について～

福島県立本宮高等学校 教諭 星 由紀子

1 研究の趣旨

学習指導要領の改訂に伴い、高等学校でも生徒が英語を使用する活動を通して、コミュニケーション能力の育成を目標とする授業実践がより一層求められている。これまでも学んだ英語を使って表現し合う活動を授業の中で取り入れてきたが、活動に対して積極性に欠ける生徒も多く、学習意欲を向上させる授業の工夫が必要と感じている。生徒が学んだ英語を使用して「英語で伝えることができた」経験を重ねることが生徒の自信となり、学習意欲の向上につながるのではないかと考える。英語での表現を通して生徒の学習意欲を高める、具体的な授業展開とその有効性を検証したいと考え、以下に述べるような仮説を設定し、本研究を行うこととした。

英語での表現活動において、以下の手だてを講じれば、生徒の学習意欲の向上につながるであろう。

【手だて1】 ストーリー・リテリングを中心とした授業展開の工夫

【手だて2】 英語での言語活動を支える学習方略^{*}を取り入れた指導の工夫

^{*} 学習方略とは「学習をより効果的に、より自律的に、より楽しくするために学習者が採る習慣や行動」である。学習活動での到達目標に向けて、学習者が個々の学習方略の種類や順序を考えて選択していくことにより学習効果が高まる（Oxford 1990）。

2 研究の概要

(1) 1年次

- ① 生徒の意識調査（6月・11月 2回実施）
- ② 教員の意識調査
- ③ 授業実践（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）対象：第2学年普通科116名 授業展開：村野井（2006）のPCPP指導
 - 実践Ⅰ（7月）英文1文からのストーリー・リテリング、学習方略の提示と練習
 - 実践Ⅱ（9月）英文3文以上でのストーリー・リテリング、学習方略の使用
 - 実践Ⅲ（11月）表現内容に工夫をしたストーリー・リテリング、学習方略の応用

(2) 2年次

- ① 生徒の意識調査（4月・10月 2回実施）
- ② 生徒の学力調査（5月・10月 2回実施）
- ③ 授業実践 対象：第3学年普通科114名（昨年度と同じ生徒） 授業展開：PCPP指導
 - 実践Ⅰ（4月～5月）英文1文からのストーリー・リテリング、学習方略の確認
 - 実践Ⅱ（6月～7月）意見を加えながらのストーリー・リテリング、学習方略の使用
 - 実践Ⅲ（9月～10月）インタビュー形式でのストーリー・リテリング、学習方略の応用

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① 生徒の学習意欲の向上につながる英語での表現活動の有効性
英語での表現活動を通して、生徒の学習意欲が向上し、口頭での表現活動だけでなく、英語で書くことに対しても生徒の積極的な姿勢が見られた。
- ② 生徒の英語学習を支え、学習意欲の向上につながる学習方略指導の有効性
教員の継続した学習方略の指導により、生徒は英語での表現活動に適した学習方略を意識して使用し、生徒の主体的学習を促すきっかけとなった。

(2) 今後の課題

- ① 英語表現の定着を意識した授業展開の工夫
生徒が適切な英語表現や発音で表現できる、英語表現の定着に向けた工夫をしていきたい。
- ② 生徒が自律して学習方略を使用することを目標とした指導の工夫
生徒が学習方略を他の学習機会にも応用し、様々な学習方略の中から自ら選択して使用していくような、更に生徒の主体的な学習に結び付く指導の在り方を探っていきたい。